

心のバリアフリー教育の推進

< 今年度の取組等紹介 Vol.7 >

各学校の実践を紹介します

優れた成果のあった学校を年度末に選定し、「グッドプラクティス」として顕彰します。

県立白井高等学校



グループ別の意見交換

「I'm POSSIBLE」日本版教材の活用

- 本県独自の「道徳」を学ぶ時間の一環として同じ指導案を1学年の全6クラスで実施
- パラアスリートによる講演・体験授業や地域と連携した福祉体験の事前学習として実施

【生徒の感想】

- ・障害のある方にはこうしなきゃいけないと自分でルールを決めていたが、その方の意思を尊重することが大切だと思った。
- ・先入観がバリアになっていることに気づいた。
- ・バリアをなくすためにはコミュニケーションが大切だと思った。

他校との交流学习

- パラスポーツ（Tスロー、オンラインボッチャなど）による交流
- 中学部と野田市立東部中学校が実施
- 高等部と県立清水高等学校が実施

【生徒の感想】

- ・混合チームで、名前を呼んだり、声を掛け合ったりしながら対戦して盛り上がった。
- ・2年間交流することができなかったけれど、今回交流が出来てよかった。
- ・実際に会って少し緊張したけれど、一緒に作戦を考えながらできたので次回も楽しみ。

県立野田特別支援学校

心のバリアフリー教育地域拠点校



Tスローによる交流
(中学部)



オンラインによる交流
(高等部)

「グッドプラクティス」の顕彰とは

心のバリアフリー教育の取組において、他の学校にとって参考となり、優れた成果があったと認められる学校を「グッドプラクティス」として県教育委員会教育長が顕彰し、賞状及び記念品を授与します。

ご応募をお待ちしています。

※令和4年5月12日付け教政第74号【心のバリアフリー教育グッドプラクティスへの応募について（依頼）】参照

お問い合わせ先 企画管理部教育政策課 電話043-223-4177